



JR 東日本「青森事業本部」が発足

全県カバー、管轄を一体化

JR 東日本は 7 月 1 日、大掛かりな組織改編を行い、青森県全域と岩手県内の八戸線をカバーする「青森事業本部」が発足しました。青森県域はこれまで東西に、盛岡支社と秋田支社の管轄区域が分かれていましたが、より一体化した事業が展開可能になる見込みです。

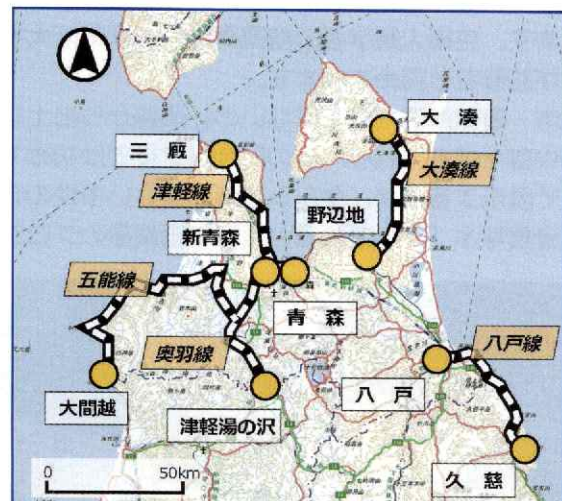
青森事業本部の担当は、八戸線（久慈～八戸）、大湊線（野辺地～大湊）、津軽線（青森～三厩）、奥羽本線（津軽湯の沢～青森）、五能線（大間越～川部）です。

1987 年の JR 東日本発足後、青森県は太平洋側が盛岡支社の、日本海側が秋田支社の管轄となりました。両支社はもともと旧国鉄時代の 1950 年に発足した鉄道管理局の流れをくんでいます。1997 年には盛岡支社の下

に青森支店が開設されましたが、青森県内の機関による鉄道関係の要請活動などは、ケースによって盛岡・秋田両支社に行わなければならませんでした。

JR 東日本は何度かの組織改編を経て、2026 年 6 月時点では首都圏本部（東京）、東北本部（仙台）の 2 事業本部と横浜、八王子、大宮、高崎、水戸、千葉、盛岡、秋田、新潟、長野の 10 支社を単位に事業を展開してきました。

同社のプレスリリースによると、今回の組織改編では、この枠組みを 36 の事業本部に組み替えました。事業本部は「地域の顔」としての役割を担い、自治体をはじめとする地域との窓口となる広聴機能を事業本部が担うことによって、より地域の近くで地域共創などを推進していく、と位置付けています。「それぞれの事業本部がマーケットニーズやお客さまのご利用状況を踏ま



青森事業本部の管轄
(JR 東日本資料から地理院地図に加筆)

え、スピーディーかつ、きめ細かく実現していく」ことをうたっています。

東北 6 県でみると、仙台、盛岡、秋田は本部・支社がそのまま事業本部に移行しました。また、青森県と同じく支社のなかった山形県は「山形」と「庄内」、同じく福島県は「福島」と「浜通り」のそれぞれ 2 つの事業本部が設けられました。

新たに発足した 36 事業本部

青森	福島	大宮	京葉総武	渋谷	湘南伊豆
盛岡	浜通り	浦和	松戸	池袋	新潟
仙台	水戸	熊谷	東京	八王子	長岡
秋田	土浦	武蔵野	品川	立川	山梨
山形	栃木	千葉	新宿	横浜	長野
庄内	群馬	房総	上野	川崎	松本

「青森西ヶ丘高校」2027 年春誕生

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑦

青森西・浪岡高校が統合

青森県立青森西高校と浪岡高校は 2027 年度に統合し、新しい高校として生まれ変わります。新設校の校名が 6 月、「青森西ヶ丘高校」と決まりました。両校の生徒たちは青西おもてなし隊などを中心に、2025 年から交流を本格化させており、来春の統合に向けて、文化祭などを通じて絆を深めています。

青森西高校は新青森駅近くの新城地区に位置します。1963 年に女子校として開校し、1996 年に共学化され

ました。今年 3 月の卒業生が第 61 回生となります。青森県高等学校体育連盟の事務局が置かれ、文武両道の学

校として知られます。浪岡高校は青森市中心部から南西へ約 18km 離れた浪岡地区にあります。1930 年に青森県浪岡村立浪岡女子実務学校として開校した後、1948 年に浪岡町立浪岡高等学校、1955 年に青森県立浪岡高校となり、今年で創立 96 周年を迎えます。バドミントン部が全国大会で活躍し、空き缶をカーテン状につなげて校舎の壁面を飾る「空き缶壁画」などの特徴的な活動があります。

両校は 2021 年に県立高校再編の第 2 期実施計画で統合が決まりました。2025 年に準備が本格化し、制服や校章、校歌を一新することが決定。校名は公募され、同年 12 月の段階で「青森西」「青森西陵」「青森桜花」「青森新城」「青森桐和」「青森西ヶ丘」の 6 候補に絞り



込まれていました。

県教育委員会は 6 月初めの定例会で、候補案を「青森西ヶ丘」に決め、同月下旬の青森県議会の議決を経て、校名が正式決定しました。7 月初めには「青森西ヶ丘高校」開設準備室としてのホームページもお目見えしました（2 次元コード参照）。

生徒たちは 2025 年の文化祭を互いに訪問し合い、青森西高校が続けてきた「地域ねぶた」の応援活動にも浪岡高校生が参加しました。

今年は、7 月 5 日に浪岡地区で開かれた「子どもの祭典」に青森西高校生がボランティアとして参加しました（写真①）。同月 10・11 日の青森西高校文化祭（写真②～④）では、生徒会が浪岡高校の展示を行いました。青森ねぶた祭でも、両校の統合を前面に打ち出した活動を計画しています。

青西おもてなし隊顧問の成田由希教諭は「両校の生徒の心が通い合うよう、地域に関する活動のさまざまな機会を活用して、新たな学校の歴史づくりに努めたい」と話しています。



「装飾する魂 ユーロ＝アジア世界をつなぐ文様の宇宙」

青森県立美術館 20周年記念企画展 - 縄文、ケルトから、ねぶたまで -

青森県立美術館は2006年7月に開館し、この7月で20周年を迎えました。記念企画展「装飾する魂 ユーロ＝アジア世界をつなぐ文様の宇宙—縄文、ケルトから、ねぶたまで」が9月27日（日）まで開かれています。古くから人々が続けてきた「飾る」という営みに注目し、世界各地の装飾文化と青森を関連づけて、「装飾する魂」の広がりとお行きに迫ります。

記念企画展は、アイルランドのケルト美術、北東アジアと中央ユーラシアの美術工芸、日本の縄文とアイルランドの巨石、北方民族の交易と装飾、ねぶたなど8章から成ります。芸術人類学者の鶴岡真弓・多摩美術大学名誉教授が監修者を務めています。

函館市・著保内野（ちょぼないの）遺跡から出土した国宝の中空土偶を、2007年の国宝指定後では初めて青森県内で展示するほか、ケルト装飾が美しい中世のラテン語福音書写本「ケルズの書」を高精細画像のプロジェクト



クションで紹介、その文様に刺激を受けた棟方志功の「飛神の柵」などと対比させます。

話題を呼んでいるのは、第七代ねぶた名人・竹浪比呂央氏が、この記念企画展のために制作した新作ねぶた「NEBUTA 将門」です。高さ約4.5m、幅6.0mのねぶたは最終となる第8章に陣取り、タイトルにあるユーロ＝アジア世界を横断する象徴的な存在として、「生命循環」への祈りを力強く未来へ伝えていきます。

青森県立美術館は三内丸山遺跡に隣接する場所を選んで建設されているように、誕生から縄文と深く関わっています。また、縄文をテーマに取り上げた企画は、開館以来、20年ぶりといえます。20周年のさまざまな記念イベントが予定されています。詳しくは2次元コードから特設ページをご覧ください。



観覧料は一般1,700



円、大学生1,200円、18歳以下および高校生は無料です。

青森県立美術館では9月27日（日）まで、コレクション展「2026-2「彩りとかたち2」」も開かれています。色彩とフォルムによる造形に着目し、野坂徹夫、工藤甲人など青森の作家をはじめ20名の作家の作品を紹介しています。観覧料は一般700円、大学生400円、18歳以下および高校生は無料です。装飾展とコレクション展のセット券は一般2,060円、大学生1,320円です。

7月10日（金）、7月27日（月）、8月17日（月）、8月31日（月）、9月14日（月）は休館です。開館時間は9時30分から17時（展示室への入場は16時30分まで）、7月18日、8月15日、9月19日（いずれも土）はナイトミュージアム開催のため20時まで開館（展示室への入場は19時30分まで）。



今年も発掘調査を一般公開

縄文遺跡群 世界遺産5周年の特別展

三内丸山遺跡で第51次となる本年度の発掘調査が行われています。現場は遺跡内の見学コース沿いにあり、例年と同様に一般公開されています。

今年の調査区域は、縄文時遊館から遺跡への入り口となる時遊トンネルを出てすぐ右側、見学ルートと重なる



「第2号道路跡」（通称・南北の道路）沿いにあります。5月下旬に始まった発掘で、道路西側の緩やかな斜面に、過去の調査で一部が確認されていた「盛土状遺構」が見つかり、石の矢じりや土器片が出土しました。

この道路沿いでは、石を環状に並べた「環状配石墓」が見つかり、当時の様子が復元されています。今回の調査区域でも、1994年度の調査で3基の土坑墓が確認されており、土坑墓列が南側に延びるのか、その他の遺構があるのかを調べるのが本年度の目的です。

調査の概要はホームページで公開されています（2次元コード）。一般公開は10月9日（金）まで、土日祝日と休館日、雨天時を除き、午前9時から正午までと午後1時から4時半まで。



三内丸山遺跡

午前11時から15分程度、調査現場ガイドが行われます。

三内丸山遺跡をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」は2021年7月にユネスコの世界遺産に登録され、今年で5周年を迎えます。10月12日まで記念の特別展「北の縄文とアジア—海をこえたつながり—」が三内丸山遺跡で開かれています。大陸の先史文化と比較しながら、「北の縄文世界」の特徴を紹介するとともに、大陸との関わりが指摘されてきた出土品を手がかりに、海をこえた交流の実像を探ります。

観覧料は一般1,200円、大学生等600円で高校生以下無料（遺跡を含む常設展も観覧できます）。8月24日（月）、9月28日（月）は休館日です。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（春の大型連休中と6月1日～9月30日は18:00）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般：500円（400円）大学生等：250円（200円）
高校生以下：無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文⇄芸術
三内丸山遺跡センター 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 不定休（青森県立美術館HP参照）

観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／
18歳未満および高校生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約15分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

＜ネット情報＞
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

